

34年余を振り返って

講師 神田 徳蔵

野田キャンパスの建築学科1期生が4年次生となった1969年4月から今日まで、34年余の間勤務してきました。当初は、安保闘争や大学改革闘争などで日本中の大学が紛争状況にあり、野田キャンパスも騒然としていました。「建築を学ぶ」「研究する」というよりも、「社会や大学の問題点を語りあう」「紛争状況に対処する」ということが主となる毎日でした。また、当時は留年する学生も多く、それは理科大の校風でもあったといえます。現在の学生は、約半数が大学院に進んでいます。大学の姿勢の変化もあってか、留年する学生はわずかです。隔絶の感があります。

振り返ってみますと、私自身にも色々なことがありました。大学が紛争状況にあった勤務当初は、大学や多くの教員と対立する形で自己主張し、行動してきたこともありました。また、34歳からの10年間、寝たきりの両親を自宅介護しました。自分で選んだ道とはいえ、私自身も体調を崩し、大変苦しい一時期でした。この間に、子供の遊び場に関する調査研究を始めましたが、10数年間積み重ねてきたものを1998年に「幼児・児童の戸外遊び場施設の地域的計画に関する研究」として遅ればせながらまとめました。今年度は、「都市近郊農村における居住地計画」と「公園計画」に関する2つのテーマで卒研を指導し、研究を進めています。

卒業生の皆さんも、卒業時の社会状況やその後の変化の中で様々な経験をされたはずですが。過去に学び、これからを見据え、健康に留意して日々活躍されることを願っています。

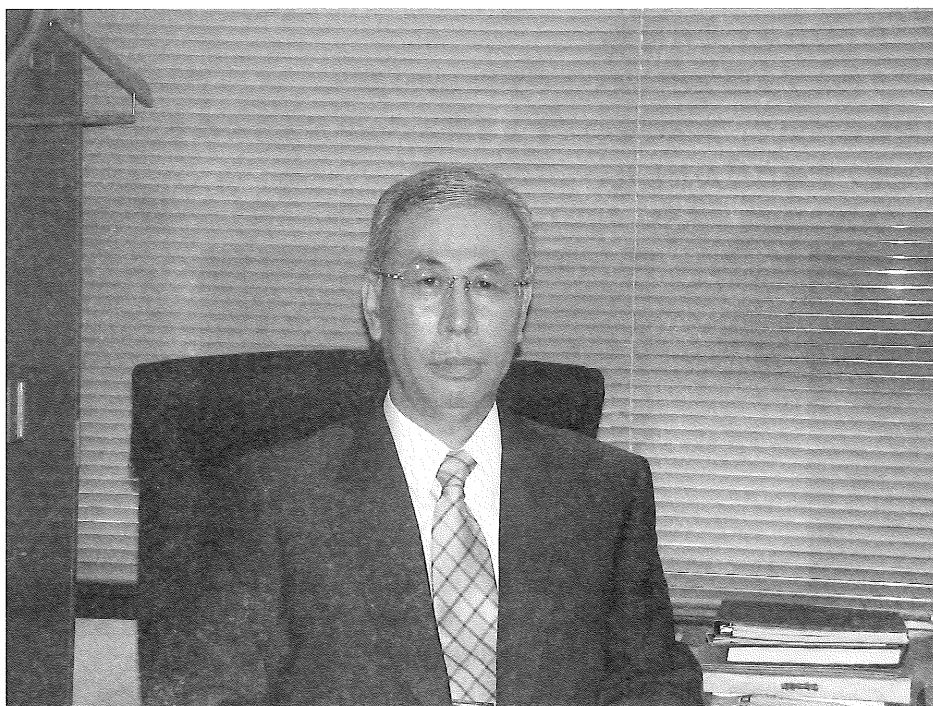
神田徳蔵先生の経歴

1969年3月明治大学大学院修士課程修了。同年4月東京理科大学理工学部助手(神田先生は、堀川先生が定年退官されるまで、堀川先生の研究室におられました)として勤務

1998年3月学位：博士(工学)取得

2001年4月より講師

子どもの遊び場の地域的計画、農村の地域施設計画及び都市近郊農村の居住地計画を主な研究テーマとし、町村の整備基本計画や各種施設の基本計画を行う。



地方における私の仕事

S53年卒 岡田 宗一

ここ山形においても建築を取り巻く環境は右肩下がりのようなのであるが、デザインを専門としている私の仕事は、面白くなってきた。もちろん採算性を抜きにしてであるが（笑）。そこで二つの最近関わった<蔵の保存再生>と<コンパクト住宅>を紹介する。

■蔵の再生 香味庵まるはち

・建築の目的——丸八やたら漬け本舗は山形の旧市街地の街道筋に位置する老舗漬物店である。敷地内には4つの土蔵と店舗部分がつながっている。施主からは、このうち1つの土蔵を改築することで、飲食業の他、美術工芸のミニ展示や音楽芸能の催しを行え、山形の文化の香りを演出するプログラムが与えられた。

・平面計画——蔵と蔵の間は長年の間に下屋など増築傾向にあったが、なるべく取り払うこととした。それによって生じる隙間を坪庭として演出し、単調になりつつある空間に変化を与えた。面積的には負の建築で時代をさかのぼる計画手法をとった。

・意匠とディテール——建築素材は天然素材を使うこと、作為的意匠を控えることを心がけた。天保年間の樽を通路部分のスクリーン・カウンターテーブルとして再生した。蔵の白壁と大樽の空間は、イギリス教会骨董家具のイス、薪ストーブ、BGMのジャズと、何でもフィットする包容力を生み出した。（商店建築 594号掲載）

■最小限住宅 玄関のない家

山形市の市街地、旧街道筋拡幅に伴って新旧の建物が混在する、文脈がまだ定まらない街並みに建つ、小住宅である。クライアントは、若いご夫妻+子供一人で、家業を継ぐため東京からUターン。北側に地続きで、母屋があるためコンパクトな住まいを目指す。

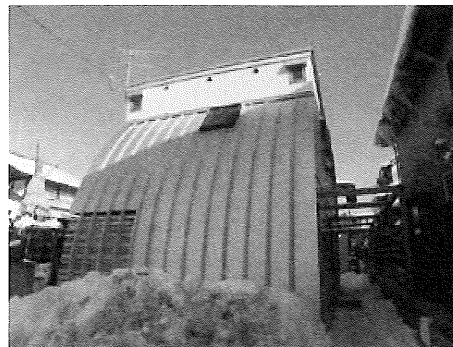
・コンパクトでローコスト——とりあえず玄関などはなく工事費約1,200万円。

・可変性——梁に可動間仕切りが設置可能で、吹抜けをつぶすと2階スペースが大きくなる。

（もちろん増沢洵自邸や東孝光塔の家等にはかなわない・・・）



蔵の再生



最小限住宅

近 況 報 告

S54 年卒 木村 王二

■ 三宅島噴火から 3 年

2000 年 6 月 26 日の晩、自宅でテレビを見ていると「緊急火山情報、三宅島噴火の恐れ・・・」とテロップが流れたのが、すべての始まりだった。

その後、数回の山頂噴火による降灰や泥流等の被害を受け、更に火砕流も発生したことなどから、9 月 1 日に「全島避難」が決定し、この秋で島を離れた避難生活も丸 3 年となる。

平成 15 年 8 月現在、1 都 16 県に約 3,360 人が避難している。

ちなみに我家は八王子市にお世話になっていて、木村は勤務先の三宅村役場が仮事務所を置かせてもらっている、新宿の東京都庁舎まで京王線で通勤している。

今の役場での職責は財政課長で、建築関係にはあまり縁がない。

■ 火山活動の状況と今後の動向

火山活動は沈静化に向かっているものの、帰島を阻んでいるのが火山ガスの放出だ。

二氧化硫黄の放出量が 3,000～10,000 トンと桜島の数倍の値で、なかなか減少しない。

国と東京都が設置した「三宅島火山ガスに関する検討会」は今年の 3 月、『帰島する住民に対するきめ細かい配慮を前提に、健康影響に関する住民とのリスクコミュニケーションを十分行った上で、ある程度のリスクの受容が許されれば、環境基準とは異なった対応が可能である』との基本的な考え方を示した。

具体的には、火山ガスとの共生が可能であろうと考えられる、長期・短期的影響についての二氧化硫黄濃度の目安が示された訳だ。

(年平均値が概ね 0.04ppm 以下、1 時間値 0.1ppm を越えた回数が年間 10% 以下等)

これを受けて三宅村では、今後帰島に向けての安全対策として、火山ガス濃度観測体制や情報伝達体制の充実を進めることになる。

また、住民とのリスクコミュニケーションを更に進めていく必要がある。

現在、三宅島で火山ガスの定点観測を行っている 10 ヶ所のうち、長期的影響の目安をクリアしているのが 3 ヶ所、境界線上が 2 ヶ所といった状況にある。

あと少し二氧化硫黄濃度が下がれば、帰島の見通しがつく日も近くなるだろう。

■ 終わりに

今回の三宅島噴火災害では、東京都をはじめ全国の皆様に多大なご支援を頂いた。

一日も早く帰島し、生活再建や復旧・復興を実現することが、ご支援に対する恩返しだと思う。

最後に、この様な状況報告の機会を与えてくれた、大北君(同期)に感謝するとともに、同窓生の健康と活躍を祈念いたします。

【連絡先】 E-mail ok.2010@helen.ocn.ne.jp

参考URL 三宅島を離れた村民のみなさまへ <http://www.miyakemura.com/>

(三宅村役場&東京都三宅支庁の共同ホームページでございます)

通信欄

☆学校とのパイプ役でありOB会の段取りをして頂いていた衣笠先生が9月から1年間アメリカの南カリフォルニア大学に留学されました。しばらくの間、野村研助手の向井さんにお手伝いをお願いするようになります。宜しくお願いします。

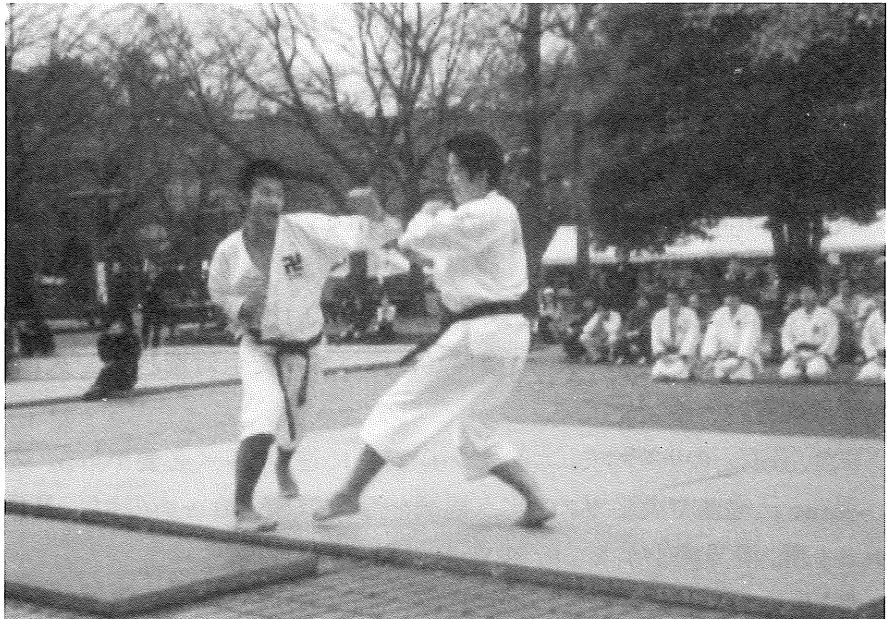
☆野田建築会は工学部建築学科OB会の築理会と合同事業を進めております。昨年発刊した名簿を始め、これからもいろいろな場面で合同事業を行うようになると思われます。乞うご期待！

☆理科大では生涯学習センターを開催しています。 <http://www.tus.ac.jp/shougai/>
地域社会や一般市民・企業人の皆様、中学校・高等学校の先生等に対し、科学に関する情報の提供や専門知識のリフレッシュに役立つ公開講座を継続的に開講しています。

「学びたい」・・・その意欲が自己を高める素晴らしいきっかけとなります。まずは講座に足を運んでみてください。きっと新しい何かに出会うことができるはずです。（ホームページより抜粋）

☆本年、NAA 賞受賞者した小林直輝君より写真およびお礼文が届きましたのでここに掲載させていただきます。

「現在は卒業し、社会人として努力と反省の日々を送っております。部活に没頭した学生生活を送りましたので、学業の方に手が回らないこともありましたが、OB の皆様方からこのような素晴らしい賞を頂き、誠にありがとうございました。」



編集後記：◎最近ほとんど話題にならない三宅島だが、現状はまだまだ大変なんだなあ…。自宅を離れて生活するのは、年をとってくるとしんどいと思う。やはり家族がいたり、高齢になってくると自宅というのは砦だよネ。

◎小林君の部活に没頭する姿は感動した！ 自分も最近年をとってきたので、没頭ではなく、ボーとしている時間があるような気がするが…。

◎今号からA4サイズをメール便で発送することになりました。



発行 東京理科大学野田建築会 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~sut-naa/index.html>

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会